

# Junior Red Cross 100th Anniversary

青少年赤十字100周年記念誌





## Junior Red Cross 100th Anniversary CONTENTS

あいさつ	3
大阪府青少年赤十字の歩み	6
100周年活動一覧	8
未来へのメッセージ	10
大阪府青少年赤十字賛助奉仕団 座談会	12
青少年赤十字創設100周年 令和4年度活動紹介	14

### 〈青少年赤十字 (Junior Red Cross) とは〉

#### はじまり



#### 子どもたちの「気づき」をきっかけに

第一次世界大戦のとき、カナダ、アメリカ、オーストラリア、イタリアの学校の生徒と先生は、戦争で苦しむヨーロッパの人々をなぐさめ励ますため、手紙や包帯、被服、慰問品などを赤十字を通じて届けました。これがきっかけとなり、青少年赤十字 (JRC) が誕生しました。

#### 人道的な価値観を世界の子どもたちへ

赤十字の精神に基づき、世界の平和と人類の福祉に貢献できる人間に成長してほしいという願いから、赤十字社連盟（現在の国際赤十字・赤新月社連盟）は青少年赤十字を創設することを決めました。日本の青少年赤十字は、1922年に滋賀県の守山尋常高等小学校（現在の守山市立守山小学校）で「少年赤十字」として誕生しました。それから脈々と活動を続け、2022年に100周年を迎えました。

### 青少年赤十字が大切にしていること

#### 青少年赤十字 の実践目標

##### 健康・安全

生命と健康を大切にする

##### 奉仕

人間として社会のため、人のために尽くす責任を自覚し、実行する

##### 国際理解・親善

広く世界の青少年を知り、仲良く助け合う精神を養う

#### 青少年赤十字 の態度目標

##### 気づき

身近な問題を発見する

##### 考え

問題解決のための道筋や方法を探る

##### 実行する

活動に取り組み、評価と反省を次へ活かす

### 青少年赤十字の加盟・活用のメリット



#### 赤十字を教材に、「生きる力」を育てる

青少年赤十字の活動は、子どもたちの思考力（気づき）・判断力（考え）・表現力（実行する）を養うとともに、コミュニケーション能力や言語活動の充実を期待できます。

赤十字には、人間の命と健康、尊厳を守るために世界中で活動する中で得た経験やネットワークなどがあります。



大阪府青少年赤十字指導者協議会長  
清明学院高等学校 校長  
**天野 久**

青少年赤十字は、子どもたちが人道的価値観を身に付けて、自立した個人として成長することを目指しています。「人道」は難しい概念ではなく、「人の命を大切にする」という価値観であり、誰にでもある「やさしさ」や「思いやり」を引き出し、育てることが青少年赤十字の役割です。そのために、「健康・安全」、「奉仕」、「国際理解・親善」という実践目標と、児童・生徒が自主的で自立した生活態度を養うために「気づき、考え、実行する」という態度目標を掲げています。

一方で、文部科学省は2020年度から始まった新しい学習指導要領のなかで、子どもたちに必要な力を「学んだことを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力、人間性など」、「実際の社会や生活で生きて働く知識及び技能」、「未知の状況にも対応できる思考力、判断力、表現力など」の3つの柱として整理しています。青少年赤十字が掲げる目標と、文部科学省が掲げる「子どもに必要な力」は共通する点が多く、青少年赤十字の活動を推進する重要性を感じています。

大阪府青少年赤十字指導者協議会では、青少年赤十字100周年事業にむけて実行委員会を立ち上げました。新型コロナウイルス感染症が流行した2年間は活動ができない時期もありましたが、創設100周年を迎えるにあたり、青少年赤十字メンバーが主体となり、既存の事業を拡充する活動に取り組みました。

次なる100年がスタートしました。青少年赤十字の活動がますます活発になり、次世代を担う子どもたちがこころ豊かに育つことを大いに期待しています。





大阪府青少年赤十字賛助奉仕団委員長  
楠 玲子

青少年赤十字創設100周年、おめでとうございます。私は小学生の時に青少年赤十字と出会い、小中高と活動をしてきました。その後、大阪で教員となり、新任の勤務校が青少年赤十字研究指定校だったことから、指導者として活動してきました。当時を振り返り、感慨深いものがあります。

賛助奉仕団は各都道府県で組織され、現在、大阪府では53名の団員が次のような信条を胸に活動しています。

- ・青少年赤十字の充実発展に協力奉仕する。
- ・赤十字思想の普及啓発に努め、平和な社会の実現に寄与する。
- ・志を同じくする人々と手をとりあい研鑽に努める。

さまざまな悩みや課題を抱えながらも、青少年赤十字を応援したいと思い、活動しています。

青少年赤十字活動とは教育現場が主体でおこなう、教育そのものだと考えています。大阪府内各地でこれまで先輩方が培ってこられた活動を途絶えさせないように、そして青少年赤十字の良さが伝わり、より大きな運動体となるように、100周年を機に、改めて新鮮な気持ちでからの青少年赤十字を支えていきます。多くの教員の皆さんのご賛同とご協力をよろしくお願ひいたします。





日本赤十字社大阪府支部 事務局長  
大江 桂子

青少年赤十字のさきがけは、第一次世界大戦時に、子どもたちが赤十字社と協力して、兵士への慰問品集めや包帯づくりなどを行った欧米での奉仕活動にさかのぼります。その後、日頃から子どもたちに赤十字の理念である「人道」の精神を伝えることで、いつの日か戦争のない世界を実現したいとの願いを込め、1922（大正11）年5月5日、日本で最初の青少年赤十字が誕生しました。

そして、児童・生徒が世界の平和と人類の福祉に貢献できるよう、日常生活の中での実践活動を通じて、いのちと健康を大切にし、地域社会のために奉仕し、世界の人々との友好親善の心を育成することを目的に活動を続け、2022年、創設から100周年を迎えるました。これまで青少年赤十字の活動や普及に携わっていただいた多くの皆様に心から感謝申し上げます。

現在、中東やウクライナでは深刻な人道危機が発生しています。各国赤十字社・赤新月社は連携して、人命を救い、人々の市民生活を守るために、物資支援や避難民への生活支援、医療支援等を展開しています。

100年の取り組みが続けられてきたにもかかわらず、未だ戦争のない世界が実現していないことは残念でなりませんが、「人道」の実現のため決して諦めず、たゆまぬ努力が必要だとより一層強く感じています。次の時代につないでいくために、今後とも青少年赤十字の活動にご理解とご協力を賜りますよう、よろしくお願ひ申し上げます。





Junior Red Cross 100th Anniversary

# 大阪府青少年赤十字

世界と日本の動き

青少年赤十字の動き

1910

- 第一次世界大戦始まる（1914年）
- ロシア革命（1917年）
- ベルサイユ条約調印（1919年）

1920

- 関東大震災（1923年）
- 世界恐慌（1929年）
- 満州事変（1931年）

1930

- 二・二六事件（1936年）
- 第二次世界大戦始まる（1939年）

1940

- 第二次世界大戦終結（1945年）
- 日本国憲法公布（1946年）
- 戦後の学制改革（1947年）

1950

- 朝鮮戦争（1950年）
- サンフランシスコ講和条約（1951年）
- 日本、国際連合に加盟（1956年）

1960

- 東京オリンピック開催（1964年）

【世界】1914年～

第一次世界大戦をきっかけにカナダやアメリカ、オーストリア、イタリアで青少年赤十字が結成される。



【全国】1922年

滋賀県守山市立守山小学校（当時、野州郡守山尋常高等小学校）で国内初の少年赤十字団を結成

【大阪】1923年

少年赤十字団の結成

【全国】1926年

雑誌「少年赤十字」創刊



【大阪】1948年

新制度の青少年赤十字発足

【大阪】1949年

加盟校が集まって青少年赤十字振興会を設置

【大阪】1951年

第1回大阪府リーダーシップ・トレーニング・センターを実施

【大阪】1953年

年末助け合い活動を開始

# の歩み

第一次世界大戦終結後の1922年に日本での青少年赤十字活動がスタートしました。  
それから100年、青少年赤十字活動の歩みを時代の移りわりの中で振り返ってみます。

## 世界と日本の動き

1970

- 大阪万博開催（1970年）
- オイルショック（1973年）
- ベトナム戦争終結（1975年）
- アフガン侵攻始まる（1979年）

1980

- イラン・イラク戦争（1980年）
- 東欧革命・ベルリンの壁崩壊（1989年）

1990

- 湾岸戦争（1991年）
- 阪神・淡路大震災（1995年）
- アメリカ同時多発テロ（2001年）

2000

- 東日本大震災（2011年）
- 熊本地震（2016年）
- 西日本豪雨（2018年）
- 新型コロナウイルス感染症の流行（2020年）

2010

## 青少年赤十字の動き

### 【大阪】1970年

赤十字精神の普及発展を目的に大阪府青少年赤十字賛助会（賛助奉仕団の前身）結成

### 【全国】1970年

東南アジア汎太平洋地域青少年赤十字国際セミナー（こんにちは'70）を日本で開催

### 【大阪】1982年

青少年赤十字振興会が大阪府青少年赤十字指導者協議会に改称

### 【全国】1984年

ネパール支援のため「一円玉募金」活用開始

### 【全国】1995年

全国の青少年赤十字加盟校が阪神・淡路大震災のための募金活動などを展開

### 【大阪】1999年

第1回大阪府高校生リーダーシップ・スタディー・センターを実施



### 【全国】2015年

青少年赤十字防災教育プログラム「まもるいのち ひろめるぼうさい」（小・中・高校生向け）発行

### 【全国】2018年

「ぼうさいまちがいさがしきんはっけん！」（幼稚園・保育所向け）発行



### 【全国】2020年

オンラインによる国際交流集会や、スタディー・プログラムを実施

### 【全国】2022年

青少年赤十字創設100周年



# 100周年活動一覧

青少年赤十字は2022年に創設100周年を迎えました。

スローガン「未来のあなたへ、やさしさを。」を掲げ、100周年事業としておこなった13の活動メニューを紹介します。

1

## 実践目標ごとの統一運動

実践目標をもとにどのような活動が出来るかを実行委員会で検討しました。そして、活動している写真を支部のホームページなどに掲載しました。



2

## のぼりを加盟校に掲げる

青少年赤十字活動の際に、のぼりを掲げもらうため、大阪府内全加盟校に2枚ずつののぼりを配付しました。



3

## バッジの着用



青少年赤十字バッジや100周年記念バッジを着用し、活動を行いました。同じものを着用することでメンバーとつながりました。

4

## 手紙を送り優しさについて考える活動

青少年赤十字創設100周年のスローガン「未来のあなたへ、やさしさを。」について考え、「あなた」へ手紙を送りました。手紙の相手“あなた”は未来への自分や家族・お友達・先生など自由に考え選びました。

5

## 周年記念展示会・イベント等の実施

青少年赤十字創設100周年記念として、指導者コンベンションなどの行事を開催しました。次の100年につなげるため、新たな歴史をつくっていきます。



6

## 青少年赤十字活動の見える化

青少年赤十字活動として日々行う活動を見る化する場として、支部のホームページやFacebookに活動を掲載しました。

7

## 青少年赤十字活動の経験がある日赤職員が講演

青少年赤十字経験のある日赤職員が小学校や中学校、高等学校にて出前講座をおこないました。今の活動が将来の自分にどのようにつながるかを話しました。

## 8 都道府県各支部にある寄せ書き旗に想いを記す

青少年赤十字100周年の旗へ寄せ書きをしました。記載する内容は、優しさあふれる“あなた”へのメッセージや未来へのメッセージ、目標など自由に選びました。メンバーや指導者等の関係者がそれぞれの想いを記しました。



## 9 賛助奉仕団とのコラボ 教え子との対談

青少年赤十字賛助奉仕団のみなさんからお話を聞くため、座談会を開催しました。大阪府での青少年赤十字の活動がつながって、いまの活動があることがよくわかりました。賛助奉仕団座談会のメッセージはP12をチェック！

## 10 「青少年赤十字創設100周年」 を付け事業を実施

「青少年赤十字創設100周年」を付けることで、活動の歴史を感じ、未来を想い、現在の活動に取り組めるようにしました。地域に根差した活動が続いていることを知るきっかけになりました。

## 11 ダンスプロジェクト

SNS企画として、世界192（令和4年度現在）の姉妹社と日本の仲間たちがGLAYの楽曲「YOUR SONG feat.MISIA」にあわせてダンスを踊るダンス企画に参加しました。その動画はSNS等に掲載し、青少年赤十字の周知と活動を一層普及しました。



## 12 青少年赤十字の古いグッズ集め

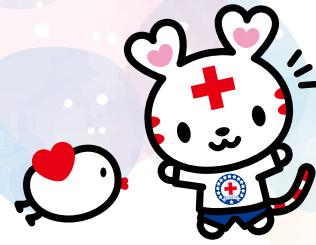
青少年赤十字創設100周年を記念に、青少年赤十字に関するグッズをもとにパネルを作成し、青少年赤十字の活動が昔から続いていることを知るきっかけになりました。



## 13 メッセージ 「私の考える青少年赤十字」

これまでの青少年赤十字活動を振り返り、「私の考える青少年赤十字」を紙に記しました。また、他のメンバーと意見を交換しました。





# 未来へのメッセージ

青少年赤十字創設100周年にあたり、青少年赤十字活動を経験し、その後も赤十字活動をしてくださっている方々から未来へのメッセージをいただきましたので、紹介します。

(所属・役職は執筆当時)

## 「知らない」ことを「知る」ことの意味

清明学院高等学校 教諭 野田 ゆい

(青少年赤十字活動を経験し、現在は青少年赤十字指導者として活動)

防災意識・献血活動・人道支援。これらの言葉を、どこか他人事のように思っていた過去の私がいました。しかし、その思いに変化が現れたのは高校一年生の秋でした。普段の生活に何も疑問を抱くことなく生きていたことは、むしろ奇跡的なことであるということをJRCの活動を通して学びました。

初めてJRCの活動に参加した時は、他校とのコミュニケーションの方に緊張していました。だから、始めは活動内容が上手く頭に入りませんでした。しかし、同世代の高校生たちと自分の身の回りについて考える時間を設けられたとき、自分が「知らない」ことを「知る」ということの重要さを思い知りました。また当時(2013年)は、東日本大震災から2年しか経過していないということもあり、特に防災への意識を強く抱いたことを覚えています。

その後も、私はJRCの活動で多くの「知らない」と向き合い、それらを「知る」ことで自分自身の視野を広げていきました。この経験は、私の教員人生にも大きな影響を与えてくれました。

現在の勤務校で高校生たちと接する中、私が彼らに常に学んではほしいと思うことがあります。それは、『世間を知り、自分自身の行動・言動に責任を持つ大人になる』ということです。現在、必要な情報はすぐに手に入れることができます。しかし、その情報の使い方を「知らない」となると、情報を得た意味が見いだせません。こ

のようなケースをサポートしていくことも、教員である私の役目であると感じています。

教員側から見届ける高校生たちのJRC活動は、可能性に満ち溢れおり、大人たちが気づかない事も見逃すことなく拾い上げてくれます。そんな彼らを、陰ながらサポートすることで、「知らない」ことを「知る」ということに変えていくことができれば、高校生たちの成長にも繋がっていきます。

全国のJRC活動に携わっている高校生へ。

現実から目を背けるのではなく、疑問を抱きながらも真正面から向き合い、考え、実行していく意味を見出し、自分自身の可能性を信じ、世界のように広い視野を持って突き進んでいってください。



## 未来へのメッセージ

大阪府青年赤十字奉仕団 副団長 守口 千智

(青少年赤十字活動を経験し、現在は青年赤十字奉仕団員として活動)

高校1年生の時にJRCに入団し、大学生から大阪府青年赤十字奉仕団に入団しました。気づけば赤十字に出会ってから10年目に突入しています。この10年間で様々な出会いや出来事がありました。JRCの時は、周りの仲間に刺激を受けながらリーダーシップのことや赤十字とは何かについて学びました。大学に進学し大阪府青年赤十字奉仕団に入団した際に、いきなり副団長に抜擢され戸惑いや不安がかなりありました。しかし、就任したからには全力で任務を果たそうとしました。

活動をしていく中で、JRCのころとは異なり他団体との交流や全国との繋がりがありました。私自身、凄く成長できた期間もありました。活動をしていく中で7原則の何に当てはまっているのかを考えながら活動していくことが増えました。特に人道について触れる機会が多く、募金活動や施設訪問なども積極的に参加していました。各活動の目的や需要と供給を考えていると本当に素晴らしい活動がJRCの時よりもあると実感していました。

しかし、2019年12月初旬に中国の武漢に未知のウイルスが蔓延し、世界中にCOVID-19が蔓延してからは、多くの活動ができなくなりました。本当にどかしく

感じていました。そんな中でもオンラインで何かできないうかを考えながら団員と共に企画を考えて何とか活動をしてきました。

2023年に入りやっと行動制限も緩和され活動も少しずつですが再開できるようになりました。今まで当たり前の生活が当たり前ではなくなることが本当にあるのだと実感した3年間でもありました。これは、災害や人道危機に見舞われている方々もそうだと考えています。他人事に考えるのではなく、自分たちにできることは何かを考えながら活動を企画し行動に移す。簡単なようで簡単ではないですが、未来のために何ができるかを考えながらこれからも誇りを持ちながら活動を続けていきたいと考えています。



## 奉仕は人生の家賃なり 2人のJRC指導者との出会いから

大阪府支部指導講師 濑戸善治郎

(青少年赤十字活動を経験し、青年赤十字奉仕団や赤十字職員を経て、現在は指導講師として活動。)

58年前、2人のJRC指導者との出会いから、私のボランティア・サービス(志願奉仕)は始まりました。その一人のJRC指導者が故下山由利子先生(住吉学園高校)です。1964年(昭和39年)の5月、JRC高校生メンバーを対象に開催された大阪府支部主催の一日トレセンにおいて、故下山由利子先生は、「あなたは、大人1人、中学生1人、小学生1人に自分のもっているリンゴ1個を平等に援助するにはどうしますか?」の問いかけから始まるピクテの「赤十字の諸原則」を解説され、この問いかけに私は、迷わず1個のリンゴを三等分にすることが平等だと答えを決めていました。ところが、故下山由利子先生の解説は、「援助は、ひとり一人の必要性と緊急度に応じて分配される。例えば、この場合は1個のリンゴを6等分に切り、大人には3つ、中学生には2つ、小学生には1つを分配することが、人を平等に取り扱うことになる」という比例の原則の適応だったのを今も鮮明に覚えています。赤十字についてよく知らなかった高校1年生の私に、リンゴではなく人間を平等に取り扱うという、人間にとて一番大切なことに気づかされた感動は、自我の確立が不十分であった私のその後の生き方を変えたと言っても過言ではありません。

もう一人のJRC指導者は、本社の故橋本祐子青少年

課長です。この出会いは、神奈川県の湘南国際ユースホステルを会場として、全国から各都道府県代表の高校生メンバーが参加して開催された、本社主催のJRCスタディー・センターです。故橋本祐子課長によるJRC実践目標の奉仕についての解説で、強烈に印象に残った言葉が、「奉仕は人生の家賃なり」という言葉です。

この言葉の意味は、「奉仕」つまり私たちが行なってきた、また、これから行おうとするボランティア・サービスは、「私たちが住んでいる社会という大家に対して支払う当然の家賃のようなものだ!」という考え方には立つべきであるということです。私はこの言葉を、私のこれから的人生の一つの方向性を示して下さったと受け止めました。そして、私は一生一度のJRCスタディー・センターの体験以降、この言葉を座右の銘としてボランティア・サービスを心がけてきました。この“2人のJRC指導者との出会いから”今の私があると58年前を振り返りあらためて感じています。



大阪府青少年赤十字賛助奉仕団は、青少年赤十字指導者であった経験を活かし、新たな指導者やメンバーの育成に取り組んでいます。今回、青少年赤十字100周年を迎え、団の役員の方々に赤十字との出会いや今後の展望をお話いただきました。

第1回  
語ろう青少年赤十字との出会いからの学び、  
関わり、思い出・経験、未来に繋がる  
事例  
(令和4年10月4日)

**寺田** 出会いは校長になってからであり、近くにやっている先輩などがいなければ出会えなかつた。JRCは出会えるかが大切だと思う。JRC活動は学校づくりや学級づくり、組織づくりに役立つ。生徒指導にも親和性が高い。もう少し早く出会いたかった。

**泉谷** 全国大会に参加し、いろんな方に出会えたことが大きな財産。学校生活のなかで、JRC活動を知らなくても、よく考えるとJRC活動に繋がっている、実践目標に繋がっていることがある。旅行先など、大阪以外の地域でJRCのことを見かけるととても懐かしく感じる。気付き、考え、行動するだけが先生方の掲示物で、あとは児童が自分たちで考えてクラスの掲示物などを作っていた。

**小笠原** 出会いは遅かったが、初めてのときに感動した。2泊3日のトレセン<sup>※1</sup>では、子どもたちがすごく変わったのを感じた。当時の子どもたちと今でも交流がある。JRCの活動はいい活動なのに、知られていないことがとても残念。学校が加盟していても、教師が知らないために参加できない人たちもいた。また、休日の出張は許可が下りず参加が難しいこともあった。支援学級担当担当時、児童をトレセンに参加させたいと思い、多くの先生方に協力いただいた。その児童はトレセンで仲間の大切さや、みんなの輪の中に入る楽しさを知り、その後の生活もよく頑張り、普通高校に進学後、今は社会人として生活している。トレセンは仲間の大切さを実感できる活動だと感じた。

**中村直** 現職中は赤十字について何も知らなかつたが、退職後JRCに出会つた。JRCの輪は温かい雰囲気で、その中で育ててもらった印象である。行動目標「気付き考え実行する」というのが1本の柱になつてゐる。学校生活だけでなく、個人の生活でも活かせるので良いと思っている。

**日根** 前任の先生から引き継ぐ形で担当になったことがきっかけ。なかなか市内の小学校に広めることはできず、歯がゆい思いをしたところもあった。JRCの視察で四国に出張に行った際、子どもたちが自ら動いて特別活動をしている姿を見て、すごいなと思った。JRCでマレーシアやシンガポールなどにも出張に行く機会があった。子どもたちは現地の子たちと、言葉の壁があつても意思疎通をしており、さすがJRCを日々実践している子どもたちだと思った。これからは、賛助奉仕団で学校の外側からサポートをしていきたい。

**西元** 校長になってから出会い、自分が動くというより担任の先生方に活動をしていただく立場であったので、より良い推進方法があったのではないかと思うことがある。JRC活動と出会う前でもJRCの態度目標に近い活動はしていたと思う。しかし、「気付き考え実行する」という言葉があるとないとでは全然違うを感じている。もっと早く出会い、現場に広められたら良かったと思う。これからも活動が広がつていけばいいと思っている。

※1 トレセン：リーダーシップ・トレーニング・センター

## 八尾

新任のときにJRC担当となったことがきっかけ。岸和田市は全校加盟なので、新任が担当することが多かつた。JRCの研修会やトレセン等に参加することで、個性豊かな先生方と出会えることが魅力だった。そんな先生方の子どもの接し方や指導方法も勉強になった。本社主催トレセンに参加した際には、それまでの学び以上にボランティアサービスが学級経営に使っていけると学んだ。

## 澤田

管理職になり、指導者協議会に参加することになったことが活動の始まりだと思っていた。しかし、よく思い出すと高校の時もJRCではないが、リーダー養成研修への参加や、新任のころにトレセンに参加したこともある。管理職時代に、子どもたちがトレセンに参加したり、先生方に指導者研修会などに参加してもらうことで学校が変わっていくことが実感できた。しかし、出張などの理解を得ることが難しく、なかなか市内の学校に広めることができなかつた。校長先生の理解を得て、広めていけるかがこれからも課題だと思う。子どもの変化を身近に感じられたら理解を得られるのではないかと思う。

## 永田

全国の指導者研修会に参加した際に、国際人道法と一緒に学んだ先生方や職員の方とは今でもお付き合いがある。「自分が変われば子どもが変わる」というのが実感できた。いじめの問題や学級経営にしても、広い世界の話から身近な話することによって子どもたちに伝えてこれたと思う。日赤以外でボランティア活動をする際にも日赤で学んだことが活きていて、活動が自分の肥やしになっていると思う。そのような機会に恵まれたことに感謝している。東日本大震災で被害を受けた子どもたちを北海道に招いておこなったサマーキャンプでは300人ほどでキャンプファイヤーをするなど、本当に大変だったが、参加した子どもたちが元気に楽しむ姿を見て、意味のある活動に携わせてもらったと感謝している。

第2回  
知ろう今の学校現場での活動状況  
青少年赤十字の課題と期待すること  
(令和4年11月12日)

## 竹田

コロナ禍により今までの行事や取り組みなどが全て止まつてしまつた。仲良し交歓会も開催できず、児童会集会等もないので結団式なども出来てない。PTAと共同でおこなつていて心肺蘇生講習も出来ていないのが現状である。これからはSDGsの活動など、世の中の動きとリンクした形での繋がりから関われていくといいなと思う。

## 楠

一度止まつてしまつたことを再開させることは本当に大変である。JRC活動は科目では学べないとても有意義なことだと感じた。中心になって担当人がいなくなつてきていることが問題だと感じている。活動したい、続けたいと思っている先生方を組織的にサポートしていく取り組みを賛助奉仕団でおこなつていただきたい。

## 中村

JRC活動はなかなか組織としては動けておらず、個々で踏ん張っているように感じる。コンベンションや防災についての勉強、子どもたちとの海での活動など、楽しかった思い出・学びがある。特に、車いすの体験として、お寺に行ったときに階段が本当に大変だった記憶がある。宿

泊を伴う体験学習から学ぶことが多かった。前任校は近くに大阪赤十字病院があることから「赤十字」に親しみがある。自分が転勤した後も、平和学習や車いす体験などの取り組みを続けられていると知り、とてもうれしい気持ちになった。それぞれの学校が地道に活動を続けている状況だと感じる。地道な活動が途切れないように活動していくってほしいと思う。

**竹田** 授業や体験学習の際に担任の先生から少し話をするだけ違う。そのためには、先生が赤十字に対して知識を深める機会がほしい。もちろん日赤の職員が児童に講義することも大切だが、先生が日赤の職員の話を聞いて児童に広めることも大切だと思う。

**永田** 先生（指導者）向けの大阪府内一斉の研修会も必要だが、小規模人数での研修会を開催する、赤十字の話をするために学校に伺うなど、小さいところを積み重ねていくことが大切である。賛助奉仕団員が出身学校に伺い、赤十字のアピールをすることもひとつ的方法である。また、オンラインも使って講義することも良いかと思う。

**西元** 学校現場だけでなく、教育委員会とも協働したい。賛助奉仕団としては、地道に現場レベルで種を蒔くことを大切にしたい。

### 第3回 考え方 賛助奉仕団としてできること 今後の展望 (令和4年12月13日)

**清水** 学校現場は大変忙しいため、自発的な取り組みはあまりできない状況にあるが、身近な先生や生徒を巻き込んでいく流れを作りたい。

**楠** 「つながる」ということが大切になってくると思う。自分たちの活動を次に「つなげる」、自分たちだけではなく他の奉仕団と「つながる」活動を考えていきたい。賛助奉仕団は「地域奉仕団とのつながり」が考えられるが、子どもの見守り隊などの活動をされている自治会など地域の方々と繋がって、学校を「地域からの支援」で支えていくのはどうか。

**永田** 賛助奉仕団は、例えばアイマスクの管理や使用方法を伝えにいくなど、先生が困っていることをサポートしに行くことや、出前講座を担っていくのが良いかと思う。受け身ではなく、あんなお手伝いやこんなお手伝いができるなど、PRしておくことが大切。こちらから伺い種を蒔いていくことが大切ではないか。

**八尾** コロナ禍により活動出来ない時期もあったことから、JRCや赤十字を知らない先生方が増えてきている。もう一度PRから始めることが大切だと思う。

**澤田** 日赤職員が現場だけではなく、教育委員会にお話ししてもらって、赤十字やJRCのことを知ってもらうことも大切である。

**寺田** 教育委員会が実施する研修の中で赤十字の説明をする時間をもらいたい。しかし、教育委員会と日赤職員はなかなか繋がりがないと思うので、賛助奉仕団の知り合いなどを繋いでいく必要もある。

**日根** 難しいかもしれないが、教育委員会でおこなわれる教員の「新任研修」や「10年研修」などで1コマもらえることが理想だと思う。

**西元** JRC活動を広めていくことが非常に難しいと思うが、やればやるだけの成果があることを広めていく必要がある。すぐには成果が出ないかもしれないが、少しでも動いていくことが必要。学校現場経験者として、気軽に先生方にJRCの良さなどを伝えられる機会があればいい。

**永田** いくら研修が授業のない時間で開催されたとしても、移動時間を含めると現場の先生が来る場合は穴が出来てしまう。そのため市町村かブロック単位で細かくやっていくことも必要だと思う。なによりも教員にJRCを知ってもらわなければいけない。その方法を考えていきたい。

**中村初** 現場では、若い先生方にJRCを伝えていくことに力を入れている。実技研修というものがあるが、そこで広める活動もしている。

**八尾** JRCを活発にさせるためには、若い先生を動かすことが鍵になると思う。年次が若い時に色々な出会いがあり、楽しい活動だと思ってもらうことも大切だと思う。

**楠** 「赤十字の活動をやってほしい」ではやってもらうことができなくなっている。「赤十字の活動をすれば子どもがこのような成長を遂げる」とJRCが人づくりということを伝えなければいけない。

**清水** 少し違う視点になるが、JRC活動をしていると大学受験の時に役立つということも高校生にはある。ここ数年、進路先の高校が加盟校かそうでないかというのも一つの選択基準となる。

**澤田** 教員免許を取得しようとしている大学生にアピールするのはどうか。長い視点になるが、学校の先生になってからも活動が続いてくれるかもしれない。



学校現場で青少年赤十字に出会ったことで児童や生徒の育成や学級運営に活用された経験や、学校を取り巻く環境の変化に対応する難しさなどを語ってくださいました。

学校や現在の指導者の状況を知る賛助奉仕団に協力いただきながら、これから時代に応じた青少年赤十字の在り方を模索し、健やかな子どもたちの成長につながる活動を続けます。

# 青少年赤十字創設 100 周年

## 令和4年度

## 活

## 動

## 紹

## 介

令和4年度に取り組んだ活動をご紹介します。

### 8月1・2・3日

#### 青少年赤十字創設 100 周年令和4年度 大阪府青少年赤十字メンバー・ リーダーシップ・トレーニング・センター

青少年赤十字創設100周年にあたる令和4年度は、8月1日から3日間トレセンを開催し、100周年の活動をプログラムに取り入れました。

記念すべき100周年のトレセンでは、みんなで記念バッジを着用しました。また、小学生は、いつも自分に優しくしてくれる身近な人に感謝の気持ちを手紙に表しました。一方、中高生は、青少年赤十字創設100周年記念ダンスプロジェクトのエントリーにむけて、お手本のダンス動画をもとにホームルーム単位で協力し合い、取り組みました。また、全員で「寄せ書き旗」に将来の自分への想いを記しました。

参加者はどのプログラムにも積極的に取り組んでいました。



### 10月2日・11月5日・6日

#### 青少年赤十字創設 100 周年記念 令和4年度国際交流事業



日本からは26支部、海外からは17の姉妹赤十字・赤新月社の高校生メンバーがオンラインで参加しました。大阪府支部からは、関西学院千里国際高等部と高槻高校のメンバーが参加し、同じホームルーム（グループ）のルワンダやマレーシア、タイなどの高校生と交流しました。

自分の住んでいる地域の紹介する「ふるさと1品紹介」や、気候変動のための行動宣言、ダンスプロジェクトなどのプログラムを通して、世界中のメンバーとつながり、自分たちの考えや知識を深める時間となりました。



## 1月29日

### 青少年赤十字創設100周年令和4年度 大阪府青少年赤十字指導者コンベンション

青少年赤十字活動を推進する指導者が、各分野の活動や課題などについて識見を深めることにより、子どもたちの豊かな人間性と「生きる力」を養う教育を展望し、さらなる青少年赤十字活動の発展となることを目的に開催している本事業は、青少年赤十字創設100周年を迎え、節目の年の開催となりました。

はじめに、多年にわたり青少年赤十字活動を通じて、赤十字事業の進展に多大なるご貢献をいただいた加盟校及び指導者への表彰式をおこないました。その後、大阪管区気象台の中平 昭彦 防災気象官から「子どもを守る気象情報」と題してご講演いただきました。



## 3月20日~21日

### 青少年赤十字創設100周年令和4年度 大阪府青少年赤十字高校生 リーダーシップ・スタディー・センター

「大阪府青少年赤十字高校生リーダーシップ・スタディー・センター(スタセン)」は、新型コロナウイルス感染症の影響により2年連続で実施できていませんでしたが、100周年を記念し、一泊二日の内容で実施しました。

府内12校から、生徒会や委員会活動、クラブ活動、学級活動などに積極的に参加し、リーダーシップについて学ぶ意欲がある46人が参加しました。

プログラムでは、一次救命処置（心肺蘇生、AEDを用いた電気ショック）など救急法の基礎を学びました。また、グループメンバーの息を合わせて取り組んだフィールドワークや、自分の興味があるボランティア活動について調べ、学校で取り組める事例を考えるワークショップに取り組みました。

参加した高校生は何事にも積極的に楽しく取り組み、青少年赤十字の“優しさ・思いやりの心”と“リーダーとしての資質”を学びました。



# **Junior Red Cross 100th Anniversary**

## 青少年赤十字100周年記念誌

---

### 青少年赤十字100周年事業実行委員 (敬称略: 所属は令和3年6月時点)

---

委員長 天野 久 清明学院高等学校  
千賀 敏弘 堺市立金岡小学校  
廣瀬 浩 東大阪市立繩手小学校  
寺下 憲志 大阪狭山市立狭山中学校  
上田 晋郎 和泉市立南池田小学校  
木次 潤一 泉南市立新家小学校  
楠 玲子 大阪府青少年赤十字賛助奉仕団  
神野 豊明 田尻町立小学校  
横山 史典 清明学院高等学校  
竹田 誠司 守口市立大久保中学校



---

〒540-0008 大阪市中央区大手前2丁目1-7  
TEL 06-6943-0708 FAX 06-6941-2038